

ひっそり しつげん

櫃取湿原希少個体群保護林

面積	計： 34.63ha （三陸北部森林管理署）
設定目的 （管理方針書より抜粋）	<u>岩手県岩泉町の小本川支流大川源流部に位置するこの一帯は湿原をなし、ハクサンシャクナゲ、ミズバショウが群生し、湿原特有の景観をなしていることから、これらの群落を保護することを目的とする。</u>
前回調査の評価・課題等	保護林設置目的であるハクサンシャクナゲ、ミズバショウ群落を保存し、自然の遷移による林相や植生等の変化について観察並びに学術上の考証に資するための群落が維持されている。
モニタリングの実施間隔	10年

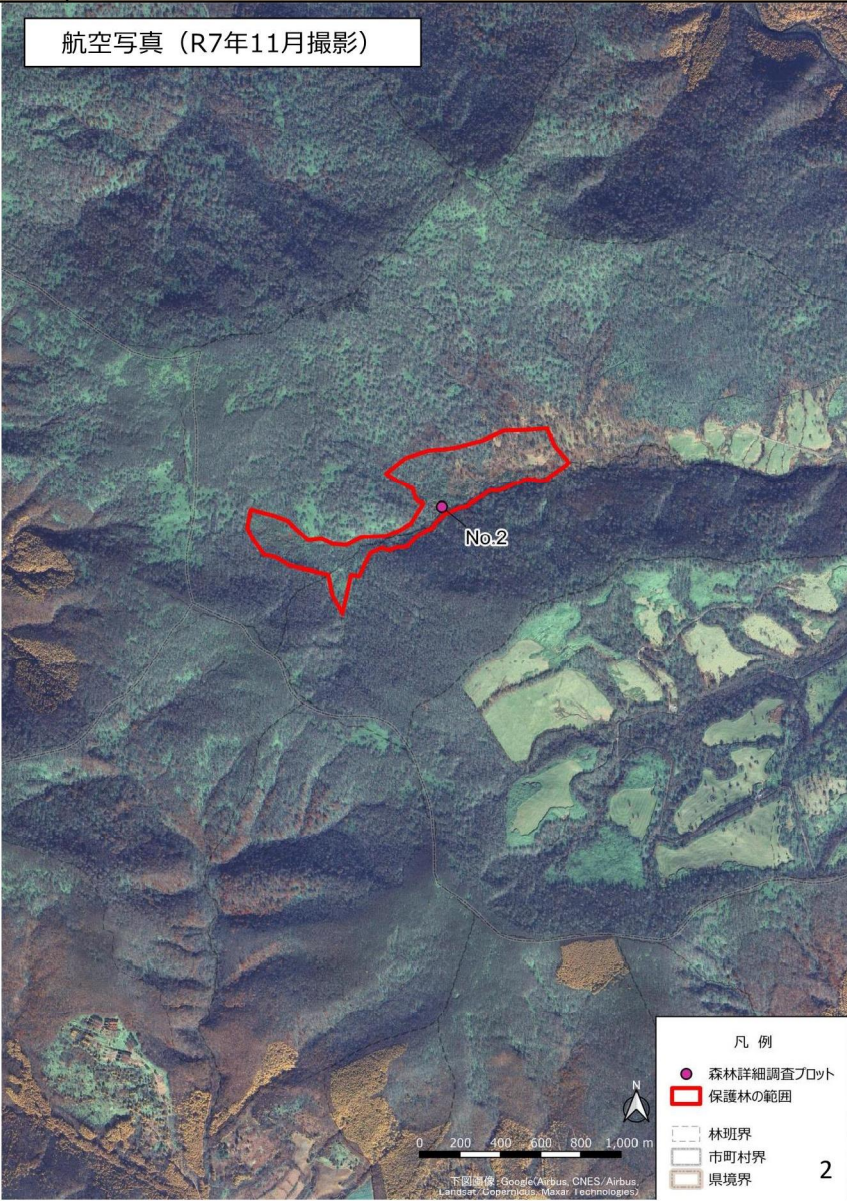
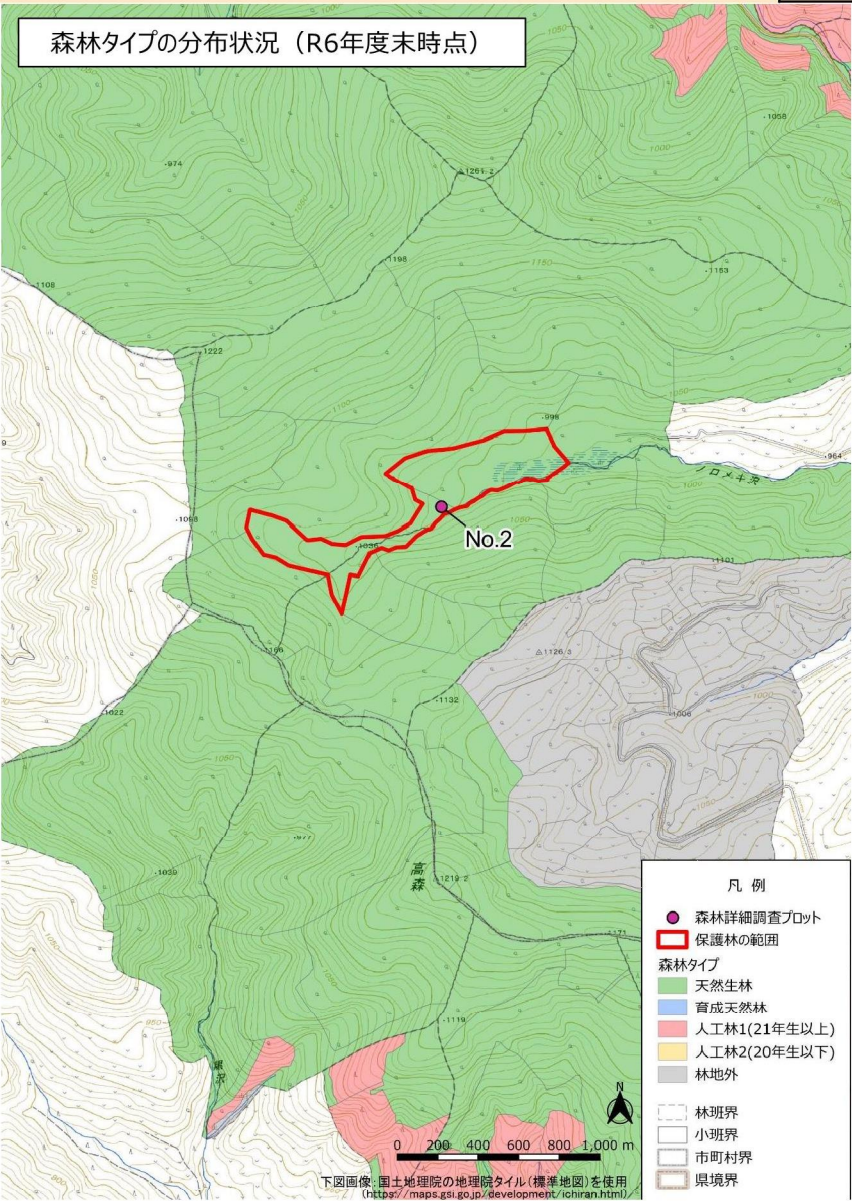
櫃取湿原希少個体群保護林

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)

デザイン

岩手県岩泉町の小本川支流大川源流部に位置するこの一帯は湿原をなし、ハクサンシャクナゲ、ミズバショウが群生し、湿原特有の景観をなしている。

本保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった。

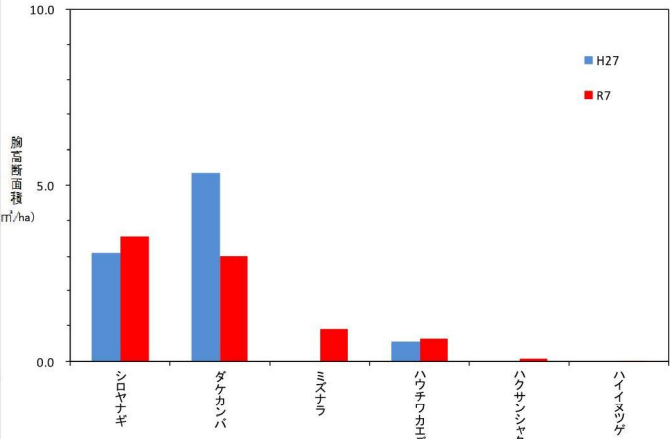


デザイン 森林概況調査、森林詳細調査
プロットNo.2

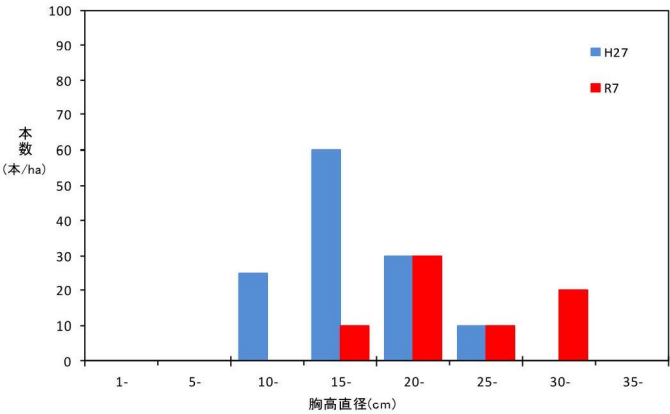
	H27(9月1日)	R7(9月18日)	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			小径木の増加がみられる。
磁西方向			小径木の増加がみられる。
天頂			大きな変化はない。

樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		胸高断面積割合	
	H27	R7	H27	R7	H27	R7
シロヤナギ	17.0	25.1	3.10	3.56	34.4%	43.0%
ダケカンバ	36.8	9.2	5.35	3.02	59.3%	36.5%
ミズナラ		2.9	0.00	0.94	0.0%	11.4%
ハウチワカエデ	27.0	3.3	0.57	0.65	6.3%	7.9%
ハクサンシャクナゲ		1.1	0.00	0.09	0.0%	1.1%
ハイヌツゲ		1.0	0.00	0.01	0.0%	0.1%
6種	-	-	9.03	8.27	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種を示す。



1ha当たりの樹種別胸高断面積

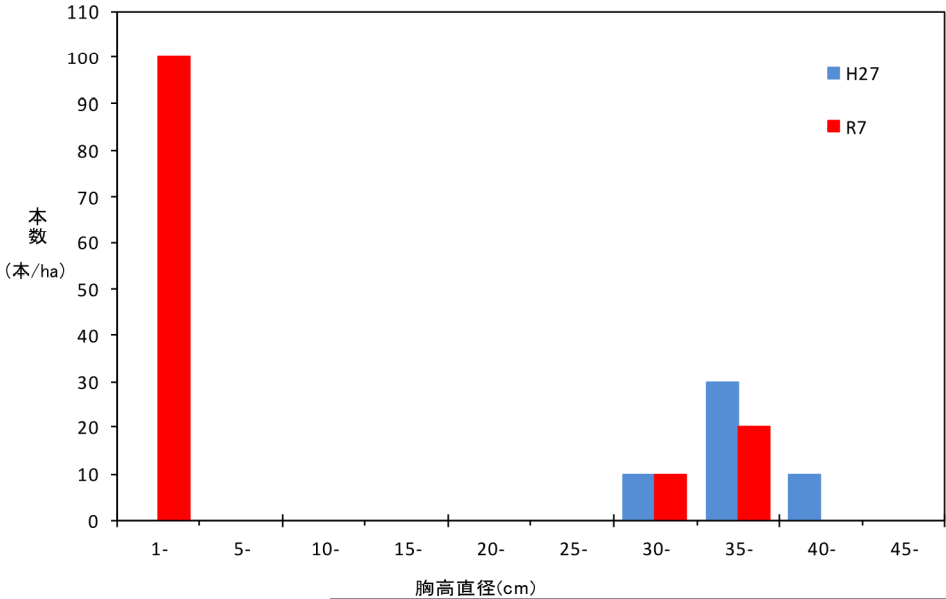


シロヤナギ(主要樹種)
1ha当たり胸高直径階別本数分布

- ・シロヤナギ、ダケカンバ等が生育する老齢林であり、林床にハクサンシャクナゲ、チシマザサ等が生育する。
- ・写真を比較する限り、林相に大きな変化はないが、小径木の増加が確認された。
- ・今回の調査では6種が確認され、前回調査から3種増加した。シロヤナギの平均胸高直径は増加し、胸高断面積も増加した。
- ・前回調査時では優占種であったダケカンバにおいては、今回調査において平均胸高直径、胸高断面積が大きく減少していた。
- ・低木層においては、ミズナラ、ハクサンシャクナゲ、ハイヌツゲが新たに確認された。

デザイン

プロットNo.2



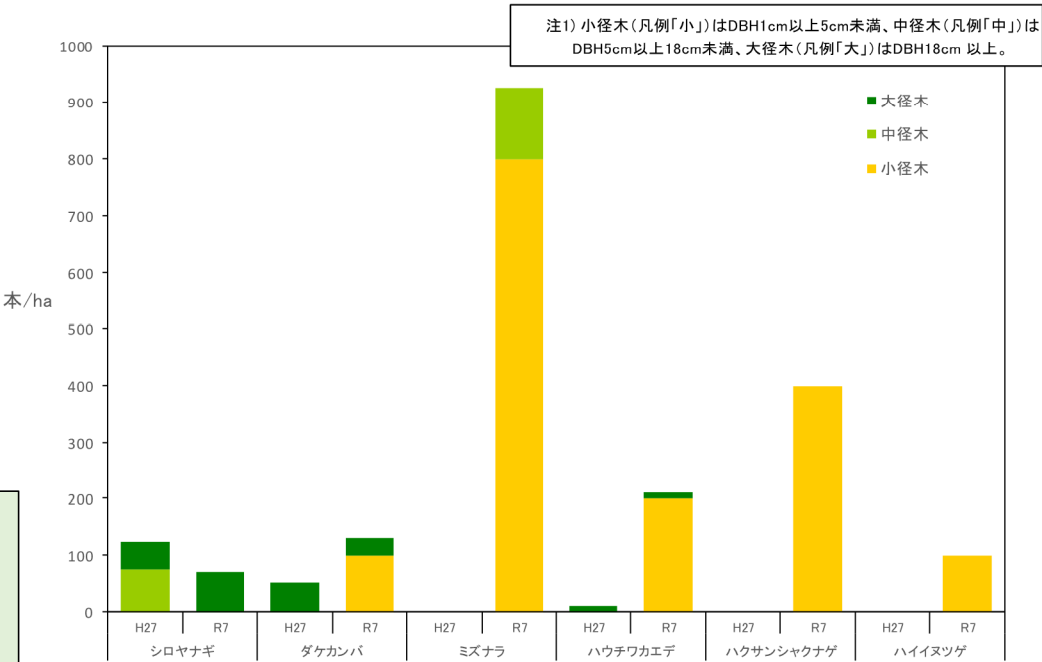
注) 小円内の計測対象樹木が(保護対象種以外)はH27年度はDBH5cm以上、R7年度はDBH1cm以上であるため、小径木に関しては本数に大きな違いがある。

ダケカンバ (主要樹種)
1ha当たり胸高直径階別本数分布

- ・主要樹種であるシロヤナギの生育本数は1ha当たり125本から70本へと減少した。
- ・前回調査では優占種だったダケカンバは、胸高断面積合計では減少したが、生育本数は大幅に増加した。
- ・低木層ではミズナラ、ハウチワカエデ、ハクサンシャクナゲ、ハイヌツゲの生育本数の増加が確認された。

樹種	生育本数(本/ha)		本数割合	
	H27	R7	H27	R7
シロヤナギ	125	70	67.6%	2.8%
ダケカンバ	50	130	27.0%	5.1%
ミズナラ		1125	0.0%	44.4%
ハウチワカエデ	10	210	5.4%	8.3%
ハクサンシャクナゲ		900	0.0%	35.5%
ハイヌツゲ		100	0.0%	3.9%
6種	185	2535	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種を示す。



注1) 小径木(凡例「小」)はDBH1cm以上5cm未満、中径木(凡例「中」)はDBH5cm以上18cm未満、大径木(凡例「大」)はDBH18cm以上。

注2) 小円内の計測対象樹木が(保護対象種以外)はH27年度はDBH5cm以上、R7年度はDBH1cm以上であるため、小径木に関しては本数に大きな違いがある。

1ha当たりの樹種別生育本数

デザイン

病虫・鳥獣・気象害の発生状況

年度	H27全体	R7		重要種 ^注		外来種	備考
調査区	ブロット全体	N区	S区				
草本層の植被率(%)	70		10				
草本層の塊占率	ダケカンパ	ミズナラ	ダケカンパ				
草本層の成達率(%)	90	90	70	環状帯R1	岩手帯R1		
	トモシダ	モミジギサ	ツバキ属の一種				

出現種数	85	18	27	1	1	5
ハクサンシヤウナグ	○	○	○			
ミズナラ	○	○	○			
ハイヌツグ	○	○	○			
スグ属の一種	○	○	○			
チシマザサ	○	○	○			
ツタウルシ	○	○	○			
ヒシダ	○	○	○			
ダケカンバ	○	○	○			
エノシロネ	○	○	○			
オオバコヤツツケバナ	○		○			
オトギリソウ	○		○			
キク科の一種		○	○			
キクササガヤ	○		○			
ゴゼン	○		○			
ススキ	○	○	○			
ススキ	○		○			
ツボスミレ	○		○			
ハルガヤ	○	○				△
ヒカゲノカズラ	○					
ミズゴケ類	○	○	○			
ミズハシショウ	○		○			R7は食害あり
ミノボシスグ	○					
ミヤマウラボ	○	○				
ヤマウルシ	○	○	○			
ワラビ	○	○				
イ	○		○			
アカバナ	○					
アズキナン	○					
アブラガヤ	○					R7は食害あり
イストウバナ	○		○			
オウレンシダ		○	○			
オオトドモ	○					
オオハセキョウ			○			
コノガイゲキショウ			○			
シシシラ	○					
スギナ	○					
ゼンマイ	○					
ニガナ	○					
ハナウツギ	○					
ハナウツギエデ			○			
ホウバノヨツバムグラ	○					
ミノソバ	○					
アカマツ	○					
アキタフキ	○					
アシボソ	○					
イタヤクワ	○					
イヌコトナギ	○					
エノコシギシ	○					△
エソフユノハナウラボ			○			
エゾメシダ	○					
エゾリンドウ	○					
オニシモツク	○					
キツネヤサギ	○					
クモキノウ属の一種	○					
ゲンシヨウコ	○					
コシアブラ	○					
コヌカグサ	○					△
サトメシダ	○					
シロツメクサ	○					△
シロヤナギ	○					
ツルアジサイ			○			
トウゴクサイシン	○					
ドクゼリ	○					
トラノオシダ			○			
ナミカマド	○					
ミハナ	○					
ハクサンチドリ	○					
ハンゴンソウ	○					
ヒメスサギ	○					△
ミズギク	○					
ミゾホオズキ	○					
ミヤマヤナギ	○					
モウセンゴケ	○					
ヤマドリヒメフイ	○					

- ・プロット内全体で、低木層でダケカンバの植
- ・シカの食痕が高頻度

項目	結果
病虫害	記録なし
鳥獣害	草本類へのニホンジカの食害が確認された。
気象害	記録なし



小門



ミズバショウへのシカ食害(プロット内)

デザインに関する評価

基準	指標	結果
希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている	希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況	森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった。
		優占種がダケカンバからシロヤナギとなるなど、立木の生育状況はやや変化していた。
		立木は、先枯れ個体が多かった。
		下層植生では、ニホンジカの食害が確認された。

価値

保護対象群落の状況

項目	結果
被害等	下層植生でニホンジカの食害が確認された。
湿生植物群落 の状況	湿生環境が維持されていた。
	出現種数に大きな変化はなかったが、一部の種について消長があった。
	踏査ルート上で、ニホンジカによる多くの食痕が確認された。 保護林東側では、放牧牛の食痕も確認された。



踏査ルートと湿原の環境



草本類への食害状況

価値に関する評価

基準	指標	結果
保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している	保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況	湿生環境は維持されていたが、下層植生でニホンジカの食害が確認された。出現種数に大きな変化はなかったが、一部の種について消長が確認された。踏査ルート上にも、ニホンジカ及び放牧牛による多くの食痕が確認された。

利活用

・インターネットによる論文検索では、学術論文等は確認されなかった。

利活用に関する評価

基準	指標	結果
森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用	学術研究等への利用は確認されなかった。

管理体制

【三陸北部森林管理署】

- ・国有林境界管理、その他管理業務等において巡視を行い、現況等を確認・把握している。
- ・巡視の結果、異常があれば速やかに署へ報告・対応する体制を整えている。
- ・県内の住民組織による山野草教室が開かれるなど、春先を中心に入林者が訪れていることを把握している。

【岩手県環境生活部自然保護課】

巡視等を行っていない。

管理体制に関する評価

基準	指標	結果
適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	関係機関により保護林及び周辺地域において林道点検、林野巡視が行われている。

